

# いきいき男女共同参画

## 女と男の認めあい・支えあい

「あなたと私の共同参画講座」は、誰もがのびやかに生きられることを目指して学び考えていく講座です。第1回と第2回は、「身近でわかりやすい男女共同参画・入門編」と題して信州大学教育学部教授・付属松本中学校長の松岡英子さんを講師に開催しました。要旨は次のとおりです。

私たちが心の中に描いている、無意識の思い込み。人の役割や資質を性別によって固定的にとらえる物の見方、感じ方。男はこうだ、女はこうだ、決まったものとしてとらえてしまう見方と感じ方。現実に私たちの回りにはたくさんあります。

### 子どもたちにも先入観…

長野市と共催で小学生のための講座「作って遊ぼう！女の仕事？男の仕事？」で、子



△温かな語り口の松岡さん

どもたちにもジェンダーを考えてもらおうと毎年開催しています。パチンコづくり（板に釘を打つ）とクッキーづくりを提案すると、子どもにも先入観があり、ほぼ100%の割合で男の子はパチンコ、女の子はクッキーを選択します。そこで性別に関係なく両方体験してもらおうと、始めはイヤイヤながらやっていた子どもたちもやってみると両方できるという気づきを持つてくれました。

### ほめられ、ほめるゲーム…

5、6人のグループになり、順番にみんなで一人ずつほめあうゲームをします。ルールは、ほめられた人は必ず「ありがとう」と言い、「いいえ、



© 段丹映子 無断転用を禁ず 「ありがとう」って、魔法の言葉ですね。

「ありがとう」と言われると、その感謝の一言だけで今までの苦労が報われた経験もあると思います。感謝の言葉を伝えること、元気づけること、そして自己決定を促すことが自尊心を高めるために大切です。自分で決める、誰で

も人から指図されるのはいやなものです。なるべく自分で決めて自分でやってみることで、子どもに対しても、やり方を指示しがちですが、ヒントを与えて違う方法もあるよとか、また失敗したらなぜ失敗したのか考えられれば、



△一日の仕事を終えてから始まる講義を熱心に聞く

子どもは成長します。ちよつと視点を替えて…のろい↓慎重、優柔不断↓思慮深い、NOと言えない↓相手の気持ちを考える、でしやばり↓積極的。自分を肯定的に見てもらおうと思つたら、人間関係をスムーズに作っていくうえでも相手を肯定的に見ることは大事なことです。

### 「あかそう」「あなた力」…

今日から一人ひとりが未来をみて変えていくには、まずは自分から変える、人を変えようと思つても大変です。自分から一歩踏み出してくださいと講師は話されました。

## 「ヘタでもいい」人の心に響く喜び

### 利用団体紹介

毎月第一週の金曜日に女性センター未来で絵手紙を習う「彩の会」（長谷川礼子代表）。女性センター未来の講座から有志を集めて活動が始まり今年で発足6年目になります。現在会員は6名、講師の森絹江さんの指導のもと、月1回和気あいあいと活動されています。会の名前の由来は、顔彩を使っているのだから、名を一文字とつて「彩の会」と名づけたそうです。



△心をこめて書いた作品

### 【彩の会】

自分の書きたい物を題材に、だいたいは、「これを書いて」というのではなく、自分の好きなものを書くのを基本にしているそうです。農家の人は、自分の作った作物を、また時節柄のものを書くのも季節感を感じられます。

### 自分の世界へのめりこむ！絵手紙は線が命

静寂の中、硯で墨を磨ることから始める。心をこめて磨った墨を筆につけ、直線、波線、曲線、名前の練習をする。墨を磨って書くことと精神統一できるし、墨の香りを楽しむ意味もあるとのこと。

「絵手紙はなんといつても線が大切。線に始まり線が終わり。線の書き方で正しく筆が使われているかどうか、見ればすぐにわかる」と森先生。線を描く紙は、にじみやすく、正しく書けて見える線は、中心に線が通って見えるそう。このように書けるようになると、省略したり、簡単に書いても人に何かを伝えられる絵になるそうです。一本一本の



△「見たままを書けばいいんだよ」と言いながら

線が深く遠く、簡単なだけだぞ難しそう。

### 仲間同士で切磋琢磨

教室の最後には、できた作品をみんなで見合せて先生に講評していただく。「一生懸命に書いて上手な絵手紙でなくとも、「いい絵手紙」を書くことがみんなの目標です。」と森先生。みんなの絵を見ながら、それぞれの良い所を観察します。すべてまねするのではなく、自分のものに生かしながら積み重ねていくと自分にか書けない「自分の絵手紙」になつていくそうです。

### 自分だけのオリジナルに愛着

できあがった絵はどうして見ますかと聞くと「もつたいなくてあげられないよね」という方もあれば、「親しい間柄での交流を楽しんでいます。」などそれぞれに自分の絵に愛着を感じている様子が伺えました。

## 経理の基礎知識に悪戦苦闘 ～パワーアップ講座「日商簿記検定3級」閉講

6月から10月までの6ヶ月間、全24回コースで開催し10月に終了しました。講師に社会保険労務士の江村登三男氏をお迎えし、財務・会計の基礎知識と電卓記号の活用方法など簿記の知識やノウハウをわかりやすく教えていただきました。また、11月に商工会議所で開催された第129回「日商簿記検定3級試験」にも4人がチャレンジしました。今回、学ばれた簿記の基礎知識を今後に活かしてほしいと思います。

### 受講生の声…

- ・先生の教え方は解りやすく、最初のうちは何とか理解できていましたが、勘定科目のところはとても複雑で難しかった。
- ・固定資産の処理など内容が難しくなってきた、簿記の奥深さが頭を悩ませました。
- ・前に学んだ事を忘れてしまったり、混乱してしまい復習が大切だと感じた。

自分自身でステップアップ 今年から入会された会員の方は、絵心が無いけど、先生の「ヘタでもいいんだよ」と言う言葉に気持ち楽になり、後押しされて入会したとのこと。「最初は、絵の色が線をはみだしちゃうんですよ。だから、家で練習して、水をつけすぎないように自分なりに工夫し、なんとかはみ出さないように書けるようになりました」とうれしそうに話してくださいました。

短いけれど心にしみる言葉 3月の震災の影響で、メディアで絵手紙が取り上げられているのを見て、心を打たれ、やってみようという方も見学にきたそうです。「ヘタでいい、ヘタがいい」をキャッチフレーズに楽しく活動しておられます。こうした絵手紙の魅力を多くの人に知って欲しいという思いが伝わってきました。興味のある方ならどなたでもこの会に入会できるそうです。見学・入会希望の方は女性センター未来（☎0543）まで